

令和4年度 清原中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強じんな気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け、自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（目指す児童像）◇

- 1 自ら学び工夫する子ども（考える）
- 2 元気でがんばる子ども（鍛える）
- 3 礼儀正しく思いやりのある子ども（思いやる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気のある学校づくりが重要である。そのためには、次の学校像を目指す。

- 目指す学校像1 「子どもが楽しく学び、居がいをを感じる学校」
目指す学校像2 「教職員が特性を生かして、指導力を発揮する学校」
目指す学校像3 「保護者・地域から信頼される、魅力ある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- （1）常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇り、危機管理意識をもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。
- （2）職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育にあたり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」を継続的な推進を図るとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。

- （3）地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成

2nd stage ～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- （1）本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに栃木県教育大綱や「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
- （2）本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、「うつのみやマネジメントシステム」による学校評価結果を反映させながら、地域社会や保護者の願い、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- （3）新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、新学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- （4）前年度の教育活動や学校評価の反省を十分に生かすとともに、各教科・道徳科・特別活動・総合的な学習の時間及び外国語活動、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。
- （5）様々な学校行事や諸教育活動の実施方法等の見直しが必要となるが、学校長を中心に職員一丸となり、連携、協力を努め、充実した教育活動を展開していくことができるよう編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
・夢を育む教育活動の推進と教職員の資質・指導力の向上（清央 PRIDE）
・校内組織管理とボランティア活用による「働き方改革」の推進
【学 習 指 導】
・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～伝え合い深め合う力を高める授業づくり～
【児 童 生 徒 指 導】
○時と場に応じて、自ら進んで元気よくあいさつができ、周囲に対する思いやりを行動で表し、積極的に友達と関わり合える児童の育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
目 指	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ・コロナ禍でもできる伝え合いの方法を考え、授業の中で随時取り入れていく。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 97.1%，教職員が 100%で数値指標を上回ったが、保護者は 86.8%で下回った。 ・学習形態を試行、工夫するとともに、授業のめあてを意識した学習を展開することで、児童の学習意欲を高め学習内容の定着を図ったが、具体的な取組までは、保護者には十分伝えることができなかった。 【次年度の方針】 ・引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・グループ学習で話し合い活動を積極的に取り入れることで、自信をもって発表したり、意欲的に学習に取り組んだりできるように支援する。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。 ・学年だよりやHP等で児童の日々の学習の様子を掲載し、保護者に発信していく。

す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	・清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を積極的に取り入れ、上級生が下級生の面倒をみる場を設定する。また、清掃班編制を3回とし、交流の機会を広げる。 ・道徳科の授業と全教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。また、思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 94%、教職員が 100%、保護者が 93.6%でいずれも数値指標を上回った。 ・年2回の清掃班編制やドリーム班での活動を機会に異学年交流の場を設定できた。 ・帰りの会等で、児童が児童の親切な行動や頑張りを称賛する機会を設けたことで、認め合う雰囲気醸成することができた。 ・「手のひらあいさつ」運動により、相手を尊重する気持ちを表現することができ、思いやりを育むことにつながった。 【次年度の方針】 ・取組を継続し、コロナ等の状況を鑑みながら、交流や認め合う機会を確保して児童への意識付けを行う。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」、学習のきまり、「カテ学ふり返しシート」を活用し望ましい行動習慣の形成を促すとともに、児童の望ましい行動や、よくできたことを称賛する機会を日常的に設ける。 ・学校教育目標と関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。 ・学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年に応じて重点的に指導する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 94.3%、教職員が 100%、保護者が 95.8%、地域が 100%でいずれも数値指標を上回った。 ・「清原っ子の約束」や「タブレットの使い方」を家庭に配付し、学校生活での決まりやルールの徹底を、家庭との共通理解の下に進めることができた。 ・家庭学習の強化週間を機会に、児童の頑張りを称賛したり広めたりすることができた。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートを活用し、自分の学習や生活を振り返る機会を確保するとともに、実態を把握し必要な指導を行う。 ・帰りの会等を機会に捉え、児童の望ましい行動等を称賛する。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○常時指導を強化するとともに、状況を鑑みながら児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。 ・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行を呼び掛け、保護者・地域にも連携・協力の輪を広げ、啓発を図っていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 98.6%、教職員が 88.9%、地域が 93.3%で数値指標を上回ったが、保護者は 84.4%で下回った。 ・「手のひらあいさつ」が定着している高学年では、相手に伝わる挨拶ができる児童が増えた。 ・中学校と共同で行う挨拶運動では、多くの児童がしっかりとした挨拶をすることができた。 【次年度の方針】 ・「手のひらあいさつ」に込められた意味、意義を周知し直し、活動の浸透を図る。 ・スクールガードリーダー等、地域の方に挨拶や会釈等ができるよう、班長会議を機会に具体的な場面を想像させた指導を行う。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	・学校行事や児童会活動、学級の係活動において、児童が活躍する場を工夫したり、教職員が児童にやれることを提案したりするようにする。 ・コロナ禍の中でも行えた行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに一斉メールなどで、HPがアップされていることを定期的にお知らせする。 ・実施できた行事に関して、録画した映像をお昼の放送で流して、振り返ることができるようにする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 88.8%、教職員が 96.3%でいずれも数値指標を上回った。 ・コロナ禍ではあったものの、昨年度よりは児童の活躍する場や、保護者が来校する機会を多く確保できた。児童が協力し合いながら取り組む姿が見られた。 【次年度の方針】 ・児童が活躍する場を工夫したり、実情に応じて児童が活動できることを提案したりするように努める。 ・行事に関しては、HPなどで情報を発信していく。 ・実施できた行事に関して、録画した映像をお昼の放送で流すなどして、振り返ることができるようにする。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	・給食だより、保健だより等を活用し朝食の大切さや偏食について、保護者へ啓発を図る。また、「朝ごはん食べよう週間」を設定し、望ましい食生活の習慣化を図る。 ・「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。 ・避難訓練や交通安全教室、全学年での引渡し訓練など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「清央っ子の約束」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導し、危機意識を高めていく。 ・学校生活の中の危険について職員であらかじめ共通理解を図りながら、児童の指導に当たる。 ・保護者や地域のスクールガードと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 95.7%、教職員が 100%、保護者が 91.1%でいずれも数値指標を上回った。 ・健康安全について授業や学校行事を通して、意識化を図るとともに、学校生活の中で児童の実態を把握し、適宜指導できた。 ・登下校の指導では、登校指導や班長会議、学年下校指導を通して事故を未然に防いだり、トラブルの際にはすぐに班を集めて話し合う場をもったりすることができた。 ・年間3回の避難訓練（地震火災・竜巻・不審者）や全学年の引渡し訓練を実施し、各学級において発達段階に応じた振り返りにつなげることができた。 ・キラキラウィークを実施することで、期間中の朝食の摂取率が上がり、児童の朝食喫食への意識が高まった。 【次年度の方針】 ・保護者や地域のスクールガードと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。 ・給食後の歯磨き指導が再開したため、指導に関する環境を整えるとともに、むし歯予防への意識を高めていく。 ・保健便りなどの各種便りについて、さくら連絡網を活用し、保護者に情報を発信していく。

A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 ※A 5 で評価	・学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動等の集団活動の中で、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・ローテーション道徳など様々な教育活動の中で、全児童の良さを全職員で共有するとともに、キャリアパスポートを活用して、児童に自分の夢と向き合うきっかけを作るようにする。 ・クラスタイムを引き続き活用し、夢プロの充実を図る。児童一人一人が自分の役割を果たせるようにするとともに、活動を振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。 ・「夢いっぱいプロジェクト」を推進するとともに、学級で、自分の目標を発表する時間を作り、他の児童がどんな夢に向かって頑張っているのか知り、応援できるようにしていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 88.8%，教職員が 96.3%でいずれも数値指標を上回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の活動を通して、めあてを達成する喜びを味わう機会を得ることができ、自己肯定感の高まりにつながった。 【次年度の方針】 ・個人だけでなく、学級全体や児童会活動などにおいても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・夢いっぱいプロジェクトに具体的な内容を盛り込んだ目標を設定し、それに向かって取り組む態度を育てたい。 ・夢いっぱいプロジェクトの報告会で、自分ができるようになったことを実際に披露する機会を設け、テレビ放送で流す。 ・学級で、自分の目標を発表する時間を作り、他の児童がどんな夢に向かって頑張っているのか知り、応援できるようにしていく。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・ALT を効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。 ・給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 89.9%，教職員が 100%でいずれも数値指標を上回った。 ・ALT と事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 ・校内に英語の掲示物を設置し、触れる機会を増やした。 【次年度の方針】 ・情報委員会に協力を依頼し、給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。

A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・生活科や社会科,「宇都宮学」を中心に,継続して,宇都宮市全体や他地区との比較検討をし,特色を知ること で理解を深める。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り,学校ホームページ等を利用して,児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は,児童が85.3%,教職員が85.2%でいずれも数値指標を上回った。 ・生活科や社会科,総合的な学習の時間を通して,宇都宮のよいところを探したり,他の地域と比べたりすることができた。 ・給食では,「宮っ子ランチ」を実施し,地産地消の考えを促した。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科,「宇都宮学」を中心に,継続して,宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深める。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り,学校ホームページ等を利用して,児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。 ・給食の献立について,郷土料理などの提供回数を増やし,地域の食材や料理を児童に周知していく。
A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・校内読書週間を実施し,本に触れる機会を確保し,各教科での調べ学習等にも活用するなど,自分が興味ある種類の本以外も積極的に読めるように促す。 ・授業において,タブレットを活用する機会を更に増やし,コミュニケーションのツールとしても有効に活用していくことができるようにする。	A 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は,児童が86.2%,教職員が100%でいずれも数値指標を上回った。 ・社会科や総合的な学習の時間,その他様々な機会を通して,積極的にタブレットを活用した授業を行うことができた。 ・学校図書館司書と連携し,テーマに応じた本を集めてもらい授業の展開に活用した。 ・学校課題として全職員で研修の機会を設け,研究・実践することができた。 【次年度の方針】 ・校内読書週間を次年度も実施し,本に触れる機会を確保し,各教科での調べ学習等にも活用するなど,自分が興味ある種類の本以外も積極的に読めるように促す。 ・校内研修で学んだことなどを授業に生かして,タブレットを活用する機会を更に増やし,コミュニケーションのツールとしても有効に活用していくことができるようにする。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 ※A2で評価	・昔遊びなど地域の高齢者の方々にお世話になった行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに、一斉メールなどで、HPがアップされていることを発信する。 ・感謝の会が実施できないなど直接関われないときは、お手紙を書くときなどに、高齢者を意識した声掛けなどを行っていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が94%、教職員が100%、保護者が93.6%でいずれも数値指標を上回った。 ・今年度は、数年ぶりにさつまいもの収穫祭を行うなど、高齢者と関わる機会を昨年度よりも多くもつことができた。 【次年度の方針】 ・昔遊びや、さつまいもの栽培・収穫など、地域の方が関わっている行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに、一斉メールなどで、HPがアップされていることを保護者に伝えていく。 ・感謝の会が実施できないなど直接関われないときは、お手紙を書く際に、高齢者を意識した内容の声掛けなどを行っていく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にする心を育むために、物への記名や生活委員会の啓発ポスターなどを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が91.1%で数値指標を上回ったが、教職員は74.1%で下回った。 ・5学年「ナルクの会」とのどんぐりの育成活動や美化委員会の「アルミ缶回収」などを通し、環境への意識や思いやる心を高めた。 ・総合的な学習の時間や道徳で、環境に対する意識を高めた。これからできることを考えるとともに、福祉への理解も深めることができた。 ・給食委員会の活動で、給食の残食を減らすための取組としてリクエスト給食を実施した。 【次年度の方針】 ・次年度も継続して、実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にする心を育むために、物への記名や委員会の啓発ポスターなどを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。 ・児童からの啓発ポスター等の活動ができるようにする。 ・給食の残食量について、児童・教職員に認知してもらえるような取組を行う。

	B 1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	○「清原っ子の約束」「清央っ子の約束」「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学ふり返り週間」を定期的を設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 83.0%、教職員が 88.9%で数値指標を上回ったが、保護者は 67.3%で下回った。 ・「カテ学ふり返り週間」の設定により、家庭学習習慣の定着が図られつつある。家庭との連携を図り、子どもに合った内容を自主的に取り組めるように支援した。 【次年度の方針】 ・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学ふり返り週間」を設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。
目 指 す 学 校 の 姿	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を密に行うとともに、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して解決に努める。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 100%で数値指標を上回った。 ・年2回の校内支援委員会を中心として、月1回の情報交換会や日常的な情報交換を基に共通理解を図り、適切なケース会議を行うことで、一人一人のニーズに合わせた組織的な支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を通して、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して早期発見、解決に努める。 ・継続的に組織的な対応を行い、情報の共有・引継を確実に進行。
	A 14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。 具体的には、いじめゼロ標語を保護者と共に作成することとし、クラス代表作品を家庭に知らせたりしていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 98.0%、教職員が 100%数値指標を上回ったが、保護者は 78.7%で下回った。 ・学級でのトラブル等に対して、事態の迅速な把握と組織的な対応をすることができている。 ・日常的な指導と併せて、いじめゼロ強調月間等を機会に指導することができた。 【次年度の方針】 ・いじめゼロ強調月間の活動でいじめゼロ標語を作成する際、保護者と共に作成することとし、クラス代表作品を校舎内に掲示し、保護者にも知らせる。 ・道徳の授業参観等を機会に、学校での指導を保護者に積極的に発信する。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校日より、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。 ・教育センターやスクールカウンセラー等との連携を深め、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを更に充実させていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が96.6%、教職員が100%で数値指標を上回ったが、保護者は87.3%で下回った。 ・教職員の不登校に関する意識は高く、情報交換などを通して、同じ認識の下、児童に関わることができている。 【次年度の方針】 ・担任、学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校日より、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。 ・教育センターやスクールカウンセラー等との連携を深め、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを更に充実させていく。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ※A13で評価	・日本語ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を充実させるとともに、より一層、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実させていく。 ・日本語教室での学びが学級内で生かされ、当該児童の学校生活の充実につながるよう、担任との連携を密にする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%で数値指標を上回った。 ・外国人児童生徒教育拠点校に指定されているため、加配教員が配置された。ALTと連携することで、充実した学習活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・今後も引き続き、学級担任と連携しながら当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実させていく。

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 95%以上	・「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。また、「夢いっぱいプロジェクト」の実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力を醸成していくとともに、クラスとしてのまとまりを強めるような取組を推進する。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者が97.8%、地域が100%で数値指標を上回ったが、児童は91.4%で下回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の推進・実践により活気のある学校づくりを進めてきた。 ・コロナ禍で学校行事や児童会活動等が縮小される中、児童に主体性をもたせながら活動を工夫してきた。 【次年度の方針】 ・「夢いっぱいプロジェクト」の実践を通して、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会活動等を通して良好な人間関係づくりに努め、より主体的に人と関わる力を醸成していけるようにする。また、「学級自慢週間」などの機会を通して、クラスとしてのまとまりを強めるような取組も推進していく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図るとともに、朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が98.0%、教職員が100%で数値指標を上回ったが、保護者は83.9%で下回った。 ・少人数指導や個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルーム等の対応により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援したが、十分ではなかった。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。 ・個人懇談や学級懇談会の折に、保護者からの要望を聞くようにし、学習指導に生かせるようにする。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・行事や授業の準備等、個々の役割と責任を明確にした上で、主務者の負担軽減、担当職員が確実な業務分担をして相互に協力しながら業務を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT、ICT支援員等の学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%で数値指標を上回った。 ・個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 【次年度の方針】 ・個々の役割と責任を明確にした上で、複数配置による主務者の負担軽減、相互に協力しながら業務を行う。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・月に1回のリフレッシュデーを着実に実行する。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得る。 ・ボランティアによる参画も含めた業務の効率化を進めていく。 ・自己研修日を設け、自己研鑽に努める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が85.2%で数値指標を下回った。 ・コロナ禍への対応や、児童指導その他の対応等で多忙になる場面もあったが、働き方改革の取組を着実に実施し、業務の効率化を図ってきている。 【次年度の方針】 ・日課の見直しや、打合せと会議の抱き合わせ実施など可能な取組を次年度も継続していく。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得るとともに、ボランティアの協力による支援も含めた業務の効率化を進めていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ○地域学校園の各部会の検討を通して、小中学校の教職員が目標を共有しながら取組を進める。 ・状況を鑑みながら、中学生と合同のあいさつ運動や乗り入れ授業等を進め、学校園としての意識をもたせる。 ・可能であれば、中学校生徒会で作成する中学校生活の紹介映像を借用し、給食時等に放送・視聴することで、児童に学校園のつながりを感じさせる。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が93.1%、教職員が96.3%でいずれも数値指標を上回った。 ・コロナ禍の影響により、活動の制限が続いている。 ・共同での挨拶運動を行うことはできた。多くの児童が挨拶をし、共に活動することができる貴重な機会になった。 ・6学年担任と中学校との情報交換会や、児童生徒指導強化連絡会を機会に、積極的な情報交換を行うことができた。 【次年度の方針】 ・来年度の6年生からは中学校でのSCとの面談が可能となるため、中1ギャップへの対策も含め、積極的に活用を促し、地域の教育力を生かしていく。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・コロナの状況を鑑みながら、外部講師を招いての教育活動により、実践内容を精選し実効性を高める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が93.4%、教職員が100%、保護者が89.4%、地域が93.3%でいずれも数値指標を上回った。 ・コロナ禍により、地域の教育力を生かした活動やボランティア活動が縮小されたが、実施方法を工夫するなどして、可能な範囲での実施の機会を増やしてることができた。 【次年度の方針】 ・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・「宇都宮学」を含めた総合的な学習の時間の指導計画を見直し、地域教材を有効に活用していくことができるようにするとともに、コロナの状況を鑑みながら、実践内容を精選し実効性を高めていく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 ※A22で評価	○地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組を更に強化する。 ○地域学校協働活動推進員等と連携しながら、地域の人材の確保や発掘を行い、授業を充実させられるよう計画・連絡・調整していく。また、地域の教育機関や企業等との連携を強化していく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が93.4%、教職員が100%、保護者が89.4%、地域が93.3%でいずれも数値指標を上回った。 ・スクールガードや保護者と連携した通学路の点検、登下校の見守り等を継続・実施し、児童の安全を確保に努めてきた。 ・地域学校協働活動推進員やPTA役員を通して、可能な限り教育活動の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・地域の人材や歴史、自然、その他の素材の確保や発掘を行い、学習活動の中に積極的に取り入れて有効に活用していくことができるよう計画・連絡・調整していく。 ・収穫祭や昔遊び体験、施設巡りなど、地域との連携を図りながら、児童にとって有意義で充実した活動を継続、実施していく。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ・学校での安全に関する活動を保護者により知ってもらえるように、簡単な文章や写真と共に学校ホームページへの掲載で発信する。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者が90.9%でいずれも数値指標を上回った。 ・毎月、安全点検を実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。 ・教員業務支援員による放課後の消毒作業を行った。 ・校庭の遊びの決まりを見直し、周知を図った。 ・保健委員会の活動として、校内のけがや事故の発生場所についてまとめた「けがマップ」を作成した。 ・校内の安全管理のため、来賓玄関や通路などの扉の開閉や鍵の施錠について教職員間で確認を行った。 【次年度の方針】 ・今年度達成した活動を継続して行う。 ・学校での安全に関する活動を保護者により知ってもらえるように、簡単な文章や写真と共に学校HPへの掲載で発信する。 ・以前行っていた七三歩きや折り鶴プロジェクトなどを実施することで、室内での事故発生を防ぐ。また、さくら連絡網やHPなどを活用し、地域や保護者へ発信する。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 ※A10で評価	・新しい教科書の内容に沿った資料をそろえ、授業に対応できるよう蔵書整備を行う。購入資料選定の際に、幅広い資料を選定できるよう、全職員が資料を選択できる環境づくりを引き続き行う。 ・学級文庫を図書室から定期的に貸し出すことで、良書に触れる機会を増やし読書意欲の向上を図る。6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし読書の質を高めていく。 ・一人一台タブレットを有効に活用し、授業や家庭学習での使用機会を更に増やしていく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が86.2%、教職員が100%でいずれも数値指標を上回った。 ・学校図書館司書の協力を得て、学校図書館や市立図書館から授業に必要な資料や図書を準備し、充実した調べ学習ができた。 ・読書週間を設定するなどして、児童が本に親しむ機会を意図的、計画的に増やし、児童の興味関心を高めた。 ・図書室では、単元に必要な本を一人一冊行き渡る量を準備してくれるため、学習が深まった。 ・調べ学習の際には、司書によるブックトークを行い、効果的に活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・学級文庫を図書室から定期的に貸し出すことで、良書に触れる機会を増やし読書意欲の向上を図る。6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし読書の質を高めていく。 ・引き続き、一人一台タブレットを有効に活用し、授業や家庭学習での使用機会を更に増やしていく。

	B 2 教職員は主体的に授業研究に取り組み、指導の工夫改善に努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し、校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%で数値指標を上回った。 ・授業研究会等を通して、指導内容や指導方法の工夫改善について意見交換を行った。 ・教科担任制の導入やローテーション授業により、指導の工夫改善につながった。 【次年度の方針】 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し、校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。 ・他学級の授業を参観できる機会を設け、授業力の向上を図る。
本校の特色・課題等	B 3 学校は「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の下、夢を育む教育活動を推進している。 【数値目標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	・クラスタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにできるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、数値化することで、目標を明確にし、児童の意識を高める。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、担任教師の助言を行う。	A 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が96.0%、教職員が100%、地域が100%で数値指標を上回ったが、保護者は89.2%で下回った。 ・児童自身が自分の夢や目標に向かって、頑張る姿が多く見られた。 ・児童が学校行事や児童会活動に積極的に取り組めるよう「夢いっぱいプロジェクト」を核にして支援を行った。目標の達成に向けて意欲的に活動する姿が随所に見られたため、今後も活動の意義を丁寧に説明していき、更なる児童の積極性を高めたい。 【次年度の方針】 ・クラスタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、具体的に数値化することで、目標を明確にし、より高い目標に向かう児童の姿を目指す。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、学級担任が助言を行う。 ・高学年としての意識をもつことができるよう、上級生と下級生が関わる場を増やす。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・28項目中18項目で、肯定的回答の割合が数値指標を上回っている。
- ・児童の評価では、全ての項目で8割以上の児童から肯定的評価を得ており、児童の自己肯定感や自己有用感の高い水準を維持していると思われる。
- A3「児童はきまりやマナーを守って生活している。」の項目では、児童、教職員、保護者、地域住民の全てで昨年度より向上し、数値指標も上回った。今後も継続して生活や学習の指針を児童と共に確認し、定着を図っていききたい。
- A4「児童は時と場に応じた挨拶をしている。」の項目では、保護者の肯定的回答は、数値指標には満たなかったものの昨年度に比べて5ポイント以上向上している。今後も引き続き、地域学校園でのあいさつ運動や児童の主体的な活動を推進し、取組の実績を情報発信していききたい。
- ・A9「児童は宇都宮の良さを知っている。」の項目では、保護者の肯定的回答の割合が昨年度よりは改善したものの、ほぼ6割程度に止まり、市小学校全体の平均を下回っている。「宇都宮学」の学習において、地域の教材資源等を活用した学習活動を更に充実させるとともに、清原地域を中心とした宇都宮市の特色を理解できるよう指導を工夫していききたい。
- ・A10、A25「ICT機器や図書等を学習に活用している。」の項目では、教職員、保護者の肯定的回答の割合が、昨年度よりそれぞれ10ポイント近く向上した一方で、児童の肯定的回答の割合は86.2%に止まり、市の平均と比べても2ポイント程度下回っている。回答の状況を細かく見てみると、学級によって差が大きいことも明らかとなり、今後も、職員研修等の機会を通して教職員のスキルを更に高めるとともに、授業におけるICT機器のより一層の活用を図っていききたい。
- ・A17「学校全体に活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。」の項目では、教職員、児童、保護者、地域住民の全てで肯定的回答の割合が9割を超え、市の平均も上回った。コロナ禍の状況で、様々な学校行事や学習活動等が制限される中であったが、感染対策を取りながら少しずつ工夫をし、皆が前向きに取り組めるように努めてきた。今後も、コロナの感染状況等を鑑みながら、諸教育活動をより充実させていけるよう努めていききたい。

7 学校関係者評価

- ・自由に伸び伸びとした子供に育ててほしい。
- ・飛山城跡の活用を検討いただき、有難い。小学生と歴史は取っ付きにくいテーマだが、是非、子供が興味をもつ教育として進めていけたらと思う。土器作り、はにわ、火起こし等の体験もできる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童は16項目中15項目で、肯定的割合が市の平均を上回り、自己評価が高い結果となった。一昨年度、ゆいの杜小学校との分離で規模が縮小したことや、コロナ禍の影響等もあり、学校の雰囲気も以前とは大きく変わったが、今後も一人一人の児童が主体的に活動できる場を設定し、取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を継続することで、更に自己肯定感や自己有用感を高めていけるようにしていきたい。
- 学習面については、引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるようにしていきたい。また、コロナ禍の状況も見極めながら、可能な伝え合いの方法を考え授業の中に取り入れたり、ICT機器等のより一層の有効活用を図ったりしていきたい。
- 生活面については、「望ましい挨拶の習慣化」に関して、保護者や児童の肯定的評価の割合が徐々に高まってきている。「自ら進んで挨拶をする望ましい態度」を身に付けていけるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、活動を活性化していきたい。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求めている。
- ・「夢いっぱいプロジェクト」については、「夢」の捉え方や活動の意義を再確認し、児童一人一人が目標達成に向けて更に意欲的に活動に取り組めるよう、具体的な目標設定についての助言や、称賛、励ましの声掛け、一人一人の頑張りを認める場の設定など工夫し、取組を進めていきたい。また、学校の取組を保護者や地域に継続して情報発信し、理解を得られるようにしていきたい。
- ・「いじめ」や「不登校」の問題に関しては、地域や保護者の関心も高く、学校でも問題の早期発見・解決や未然防止に努め、組織的に対応しているところである。これらの問題を解決するためには、関係機関や保護者、地域との連携も重要であり、地域協議会や学級学年懇談会等の機会を利用し、必要な情報については共有しながら、いじめ防止やいじめの早期解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていきたい。また、コミュニケーション力や友達と望ましい関係を築く力を身に付けさせていくことで、いじめ防止にもつながっていききたい。